

現代

鳥獣戯画

Contemporary
Choju-Giga Exhibition

2025 9.9 火 -
11.24 月



お手持ちのスマートフォン・イヤホンを使用
して無料で作品解説をお聞きいただけます！

※ 音声ガイドのご利用はアプリ
「ポケット学芸員」のダウンロードが必要です
※ 機器のレンタルは行っておりません
※ セレクト作品のみお聞きいただけます

学芸員による
ギャラリー・トーク

10/25(土)・11/15(土)
各日 14 時より開始・予約不要
入館料のみでご参加いただけます



京都・高山寺に伝わる絵巻物「鳥獣戯画」は、12世紀から13世紀にかけて制作された日本美術の至宝です。作品の中に登場するユーモラスで生き生きとした動物たちの描写は、兎や蛙、猿などが人間のように振る舞う愛嬌ある姿を通して、見る者に笑顔と深い考察をもたらします。これらの動物たちは、時代を超えて私たちに楽しさや共感を与え続けています。こうした「鳥獣戯画」に見られる表現は、日本美術の中で長く親しまれてきた「動物画」の伝統にもつながっています。動物画は、古代から現代に至るまで、さまざまな文化や時代を通して描かれてきた重要なテーマの一つです。日本画においては、動物たちの持つ生命力と自然との調和を追求し、繊細で豊かな表現力を持つ花鳥画など、数多くの作品が誕生しました。江戸時代以降、狩野派や円山派の画家たちがその表現をさらに洗練させ、今日に至るまで動物画は日本画の一分野として進化を続けています。本展では、「鳥獣戯画」の世界を再解釈した「現代鳥獣戯画」を中心に、動物たちの豊かな表情や動きを、伝統的な日本画の技法で描いた様々な動物画をご紹介します。古典の題目に現代の感性が融合して生まれた新しい「鳥獣戯画」の世界を、ぜひご堪能下さい。

【出品作家】

上村淳之、加山又造、川又 聡、河股幸和、北田克己、絹谷香葉子、栗原幸彦、佐藤 晨、竹内浩一、西田俊英、西野陽一、平子真理、藤原敏行、松村公嗣、武蔵原裕二 他(五十音順)

※会期中は桜だけの展覧会「桜百景」は開催しておりません



東急東横線・東京メトロ日比谷線中目黒駅徒歩5分

入館料	一般	大高生	中学生以下無料
	800円	300円	小学生以下は要保護者同伴

【開館時間】 10:00~17:00(最終入館 16:30)

【休館日】 月曜日(但し9/15・10/13・11/3は開館、9/16・10/14・11/4 振替休館)

【主催】 郷さくら美術館 【後援】 一般社団法人めぐろ観光まちづくり協会



郷さくら美術館
Sato Sakura Museum

〒153-0051 東京都目黒区上目黒 1-7-13
TEL.03-3496-1771
<https://satosakura.jp>

web

twitter

instagram



次回 2025/12/6(土)~2026/2/15(日) Duet/二人展 — 押元一敏 / 染谷香理 —